



第4回目 勤務助産師部会「わいわいカフェ」



日時：令和3年8月14日10時～11時30分 テーマ：「オンラインを活用した助産活動」

《当日のプログラム》

1. 開会・オリエンテーション
2. 話題提供(2名)
「オンライン母親教室を開催して」
3. オンラインを利用した助産活動について
情報交換や意見交換
4. 兵庫県助産師会の活動報告

《今年度の勤務助産師部会の活動予定》

- ・兵庫県助産師会の研修会は9月5日～開始
- ・産前・産後ケア事業について
- ・近畿地区研修会について
- ・兵庫県助産師会のメーリングリストの活用

次回のカフェ 10月6日18時半～19時半

「仕事と家庭の両立、
どんな工夫をしていますか？」



《情報と意見交換》

- ・コロナが終息せず、感染防止の観点からオンライン母親学級を導入した。
- ・オンライン母親教室の導入までに、リハーサルをして音や画面の見え方などを確認した。
- ・参加者が困ったことは、Zoomの操作方法が多かった。
そのため、ファシリテーター以外のスタッフが参加者と電話で会話し、操作方法を説明した。
- ・マニュアルを作成して、トラブルの対応に備えている。
- ・オンラインでは、会場に行かなくても参加出来る。(里帰り前、自宅、会社からでも参加可能。)
- ・母親教室の開催に慣れていないスタッフは、原稿を読むだけで精一杯で、スライド操作や参加者の反応の確認など同時作業が対面よりもしにくい。そのためスキルアップが必要である。
- ・助産師は専門職である。その専門職が母親教室という健康教育をしている。そのため、実状は違っても、費用がかかることを提言していくことで、母親教室の質の向上と共に、助産師のモチベーションの向上、助産師の存在価値などを周囲へアピールすることに繋がる。
- ・参加者が話しにくいことがある。そのためファシリテーターが参加者に話し掛けるスキルも必要である。
- ・ブレイクタイムやグループワークの時間を設けて、妊婦同士が交流を図る機会も設けたい。
- ・参加者同士が、どんな人が参加しているか分からず、心を許して参加できないという意見がある。
そのため母親教室の案内の際には、画面には顔出しをすることを条件であることを広報し、母親教室当日には自己紹介してもらう時間を設けるのが良い。
- ・今後は、オンラインでの産後ケアも展開していきたい。